

キセキが2023年4月に名古屋市のピースあいちに寄贈した資料が紹介されました。



2024年1月27日のトーク・イベントでも紹介されました。

ピースあいち イベントのご案内

寄贈品展トークイベント 寄贈品から見てくるもの

開催中の第11回寄贈品展「戦争が遺したモノたち」の展示資料をもとに語られる3つの話。
寄贈者・展示チーム・研究者3人の語りから、戦争の実態と、戦争を生きた人々の姿が見えてきます。

2024年 1月27日(土) 13:30～15:00

ピースあいち 1階交流のひろば

参加費無料 入館料(大人300円小中高生100円)で参加できます

第1部「赤い手帳と挟まれていた写真」
お話: 青柳清子さん 寄贈者・ピースあいちボランティア
(母・祖母の体験 市三高女の空襲で母の妹が犠牲に、母の兄と弟も戦死)

第2部「戦争と向き合ってきた10年の海軍生活
西尾自得さんの備忘録より」
お話: 安藤正幸さん ピースあいち資料班・寄贈品展チーム
(寄贈者の父親の海軍生活 一軍艦「日向」、上海上海海軍特別陸戦隊、駆潜艇)

第3部「米軍側から見た終戦間際の愛知」
お話: 広中一成さん 愛知学院大学 文学部 歴史学科 准教授
(連合国作成の地図・写真の中の名古屋・愛知・東海地方)
(内容・タイトルは変更になる場合があります)

予約制 052-602-4222 ピースあいち事務局まで

戦争と平和の資料館ピースあいち 《博物館相当施設》
〒465-0091 名古屋市名東区よもぎ台2-820 TEL/FAX 052-602-4222



お話: 安藤正幸さん
ピースあいち資料班・寄贈品展チーム

(寄贈者の父親の
海軍生活 一軍艦

「日向」、上海上海海軍特別陸戦隊、駆潜艇)



第3部「米軍側から見た終戦間際の愛知」

お話: 広中一成さん 愛知学院大学 文学部 歴史学科 准教授
(連合国作成の地図・写真の中の名古屋・愛知・東海地方)



第11回寄贈品展 目 録

受 贈 期 間：2022年6月から2023年6月まで

展示会会期：2023年12月5日（火）～2024年2月24日（土）

会 場：ピースあいち3階展示室

第11回寄贈品展 戦争が遺したモノたち 開催にあたって

寄贈者 キセキ遺留品返還プロジェクト

寄贈日 2023年4月30日

寄贈品

連合軍による名古屋地区地勢調査書	10196
53明治飛行場写真	10197
54三方ヶ原飛行場と爆破範囲写真	10198
68 焼津飛行場と海岸部写真	10199
69.A 河和水上飛行機基地 写真	10200
85. 道路トンネル 86.木曾川鉄橋写真	10201
87.天竜川鉄橋 88.浜名湖鉄橋写真	10202
91.単線電気鉄道トンネル 92.名古屋鉄道操車場写真	10203
93.名古屋駅 94.鉄道操車場写真	10204
95.鉄道、電力、電話線 96.急行列車写真	10205
97.浜松近くの軽便鉄道 98.吉田、豊橋駅写真	10206
100.私鉄電車 101.蒸気機関車 102.流線型機関車写真	10207
103.流線型電気機関車 104.冷蔵車 105.無蓋車写真	10208
MAP2.港と停泊地	10209
MAP4.名古屋港地図	10210
MAP8.沿岸地図	10211
MAP15.河川地図	10212
MAP23.鉄道地図	10213
MAP24.通信地図	10214
MAP26.岐阜市地図	10215

MAP30.行政 人口	10216
地図と写真の索引地図	10217
オリエンテーションマップ	10218

寄贈品は、「NPO法人キセキ遺留品返還プロジェクト*」の代表としてご活躍されているジャガード千津子さんが、昨年ネットオークションで入手されたものです。ジャガードさんは、刈谷市の出身で現在米国イリノイ州在住、来日された折に当館を訪れ、貴重な資料を寄贈していただきました。

寄贈品は、連合軍による1945（昭和20）年6月15日付の名古屋地区地勢調査書No.134の一部です。この資料は、イリノイ州にある小さな町ガリーナの印刷屋で見つかり、その後古物商の手に渡り、ネットオークションに出品されたと推測されますが、詳しい経緯は不明です。

このシリーズは、オーストラリアのモナッシュ大学のデジタルライブラリーで一般公開されています。

*キセキ遺留品返還プロジェクト 1971年から米軍兵士が持ち帰った旧日本兵の遺留品を遺族、親族に返還する活動を続け、数年前からは歴史資料を博物館等に寄贈する活動が増えている。